

2025年6月3日

報道関係各位

株式会社おきでん CplusC

自治体向け「やさしいみまもり」サービスの提供開始について

～ 沖縄電力グループが日本全国に「ココロのエネルギー」をお届けします！～

株式会社おきでん CplusC（代表取締役社長：仲程拓）は、高齢者みまもりに係る自治体・地域関係者等の負担や、ご家族の時間・経済・精神的負担の増加という社会課題を解決するため、自治体向け「やさしいみまもり」の提供を開始いたしました。

自治体向け「やさしいみまもり」は、限定した対象者にスポットで設置するような、これまでの高齢者見守りサービスとは異なるコンセプトで、地域全体の全高齢者世帯を対象に「やさしいみまもり」を整備することで、地域を面的に見守る社会システムを構築、提供いたします。

「やさしいみまもり」は、WiFiデバイスで検知した活動・睡眠を携帯アプリで確認することで家族を中心としたみまもりの輪を形成します。万が一家族が異常に気づかない場合や対応できない場合には、管理システムで地域関係者（自治会、民生委員、自主防災組織等）へ通知され、更に公助（消防や包括支援センター等）へ通知をエスカレーションさせることで、だれひとり取り残さない社会を実現できます。

自治体様がご利用頂くには、スマートプラグ型の安価なデバイスを対象世帯に設置頂き、管理システムのご利用が必要となります。

すでに沖縄県の離島・過疎地域づくりDX促進事業の対象地域である「国頭村・大宜味村・東村・伊江村・石垣市」の一部エリアではデバイス設置が進んでおり、ご家族様にもサービスをご利用頂いています。今後は沖縄県内全域、さらには全国の自治体への展開を進めてまいります。

CplusCは「やさしいみまもり」を高齢者福祉における社会基盤として位置づけ、地域における全高齢者を対象とした面的な普及を通じて、安心・安全な地域社会の構築に貢献してまいります。

【全高齢者を対象とした面的普及の背景】

沖縄県は単身高齢者が全国に比べ多く、共助の担い手である民生委員等ボランティア不足と高齢化が深刻化しており、公助（役所、包括支援センター、社会福祉協議会等）においても人的リソース不足や昨今課題化している孤独死放置への対応等、地域の高齢者福祉の取組の持続性が危惧されています。

持続可能な高齢者福祉を実現するためには、新しい形で高齢者のみまもりを行う社会体制の構築が必要であり、高齢者・家族・自治体・地域関係者にIoTやAI等を活用して有機的につながり、離れて暮らす家族等によるみまもり（自助）や、社会的に必要性が高い者への行政等によるみまもり（共助・公助）を組み合わせた高齢者等みまもり運営体制強化を実現します。

1. 商用サービス開始時期 :

2025年6月2日（月）

2. サービス対象地域 :

- 沖縄県全域
- 全国の自治体向けサービスとして対象地域を拡大中

3. おきでん CplusC「やさしいみまもり」の特長

（1）家族アプリ・共助アプリ・公助アプリによる利便性の向上とみまもり体制強化

- WiFi センシングで得られた高齢者の睡眠・活動データを専用アプリで「見える化」。
- 離れて暮らす家族は手元の家族用アプリを通して日常的なみまもりを行い、体調の異変に早めに気付くことが可能。
- みまもる側の家族は3名まで緊急時の通知先として登録が可能。みまもる目を増やすことで、高齢者本人及び離れて暮らす家族にも、より一層の安心感をご提供。
- 睡眠及び活動が一定時間検知されない場合、事前に登録された家族や地域関係者向けにアラートを通知。
- 家族中心のみまもりをしつつ、さらに地域関係者（専用タブレットアプリ）や自治体（アラート管理画面）が連携することで、持続可能な地域のみまもり支援体制を構築。

（2）緊急連絡網のデジタル整備

- 高齢者本人および家族情報等をシステム登録することでデータ更新作業を効率化。定期的な更新案内により情報の陳腐化を防ぎ、安定したみまもり体制を維持。
- 家族情報等が集約された緊急連絡網は個別避難計画への活用が可能。さらにシステム化されたことで、作成後の定期更新作業を効率化。個別避難計画作成にかかる自治体の負担感を軽減。

（3）WiFi センシング技術を活用

- WiFi 電波の反射から人の動きを検知し、屋内における高齢者の睡眠・活動状況を判別。
- WiFi 電波は監視カメラのような死角がなく、物を透過する性質があるため広範囲の検知が可能。
- 高額な資機材や大規模な工事を必要とせず、低コストでの導入が可能。

（4）利用者のプライバシーに配慮

- カメラ、マイク、ウェアラブル機器を使わないため、監視されている圧迫感や機器着用による煩わしさなし。
- スマートプラグ型センサーを採用したことで異物感をなくし、生活空間と調和した機器設置が可能。

4. サービス利用料

- みまもりキット（スマートプラグ型デバイス 3 個セット）および システム利用料は、導入世帯数に応じて変動。（詳細は、お問合せ下さい。）
- 登録費用、設置費用等は別途発生。

日常のみまもりを面的に整備し、高齢者等をみまもる仕組み

日 常

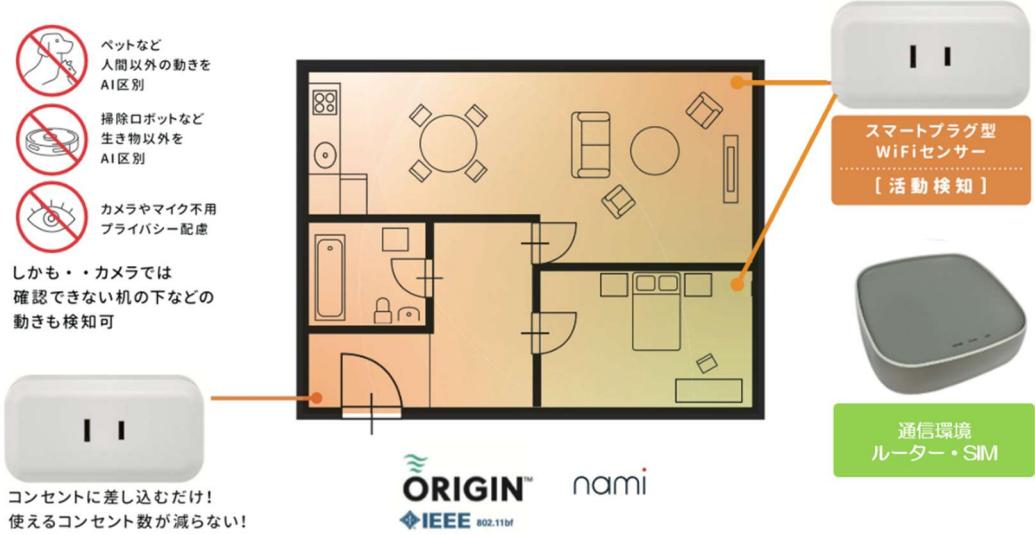
家族を中心としたみまもりを実施。さらに地域関係者等が連携することで持続可能な地域のみまもり支援体制を構築。

緊急時

「活動・睡眠が無い状態継続」が把握可能なため、「孤独死可能性」をいち早く判定し、
家族→地域関係者→役所・消防等に通知可能



カメラ・マイク・ウェアラブル一切無しだから、高齢者にとって煩わしさゼロで、プライバシーにもじゅうぶん配慮。
世界最先端・標準化規格WiFiセンシングAI技術・機器。ペットや扇風機などを区別して検知。



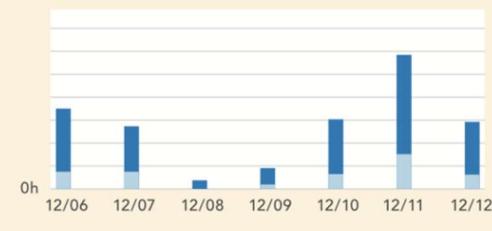
「24時間365日」見える化したら、自然と〈自助〉が動きました。

アラートや外部駆けつけに頼りすぎない。自分でグラフ表示を見て、動く。自治体が望む〈自助〉が実現します。



父親は一昨年に誤嚥性の肺炎から容態が悪化して亡くなりました。
一方、母親は同システムで体調の異変を察知し、早期対応出来た
為に肺炎は免れています。大事には至らず、元気に過ごしております。
これも、今回の実証試験に参加させて頂いたことであります。
大変感謝しております。
今後とも同システムの改善が図られ、ご本人、そして遠方にお住まいのご家族の皆様が安心して過ごすことの出来る、心強いツール
になる事をご期待しております。

(2022年2月いただいたメールより抜粋)



0h
12/06 12/07 12/08 12/09 12/10 12/11 12/12



2021年～沖縄県14市町村協定/大規模社会実証・事業・ヒアリングからわかった

高齢化に伴う国・自治体・地域関係者のお困りごと/課題



課題① 高齢化推移スピードを上回る財政出費増。



課題② 既存施策は、担い手不足&“老老”型で限界。



課題③ 「孤独死」放置。「自治体対応義務なし」困難。

課題④ 「個別避難計画」市町村整備努力義務の遅れ。

課題⑤ 『2040年問題』=既存公的サービス体制崩壊。

◆お問合せ先

株式会社 おきでん CplusC (シープラスシー)

TEL 098-870-9610 (平日 9:00～17:00) / E-mail support@cplusc.co.jp